

第91回 あまみエフエム放送番組審議会

1. 開催日時 令和4年9月7日(水) 19:30～
2. 場所 奄美市名瀬金久町4番3号 当法人会議室
3. 出席委員 4名(敬称略)

後藤 美穂子、中村 由美、福崎 伸悟、山根 篤大
(欠席: 大谷 勲、野元 剛二、元治 雅市郎、山田 一平)

あまみエフエム 3名 渡 陽子、東 蘭、菅野 優希

4. 議 題

(1) 審議

議題1

「ナキャワキャ島自慢」

議題2: その他、質問など。

後藤委員長

(挨拶)

では、中村委員から番組についての感想をお願いします。

中村委員

まずは、インタビュアーの中学生が島の子どもらしいなと感じました。

次に、取材された「芦花部集落」は私の住んでいる集落に(規模などが)似ていると感じ、出演者の方々も明るい雰囲気でお話しされていて、似ているシマ(集落)として、その場の情景を想像することができました。

また、年配の方々取材対象なので、「島自慢」も必然的に「昔ばなし」になるのだなと感じました。番組の中で日本復帰までの話題の時に、自分の家族からも奄美大島がアメリカ軍政下にあった時代の話聞いたことはありましたが、当時を生き残った方が集まることで聞くことができるお話もたくさんあるのだろうなと思いました。島自慢というタイトルであっても、その年代の方々には昔の苦しかった時代の話が主にくるのだろうなと思いました。ラジオを通して今の世代の方が聴いた時に、そんな歴史があったからこそ、今の自分が存在するのだということを感じてほしいと思いました。

後藤委員長

続いて、福崎委員、お願いします。

福崎委員

最近は集落の集まりが減ったことに伴って、年配の方の話を聞く機会も減りました。しかし、先代たちの話を聞くと、彼らは自分達が生きてきた/乗り越えてきた時代に対して誇りを持っているし、今でも小学校時代の同級生と交流している姿を見ていると、時代の流れが伝わってきます。特に田舎では故郷への想いが強い傾向があるので、先代たちのように自分も老いた時、同級生らと昔話をしたいと思っていますが、私の同級生はほとんど地元にはいないので先代たちが羨ましく思います。行事で集まったとしても、その日は忙しくなることが多く、集落の人とゆっくり話す時間は取ることができないので、この番組で彼らの話を聞く機会があることは私としては嬉しいです。

また、年配の方でもシマロ(集落の方言)がわからない方もいて、シマロを話すことを禁止されていた時代なのかなど、背景も考えることができました。私にとっては、島の人たちが一度は島を出たとしても、戻ってきたということ自体が「シマ自慢」だなと感じました。

後藤委員長

続いて、山根委員、お願いします。

山根委員

番組の収録は、どこでしているのですか？

事務局_渡

集落の公民館でしております。この時は、約 20 名が来てくださりましたが、普段は、3～4 名にインタビューしています。

山根委員

インタビューを受けている方の周りにはいる方々の声も聞こえて、現場の雰囲気伝わってきました。また、インタビュアーの中学生は職場体験の生徒でしょうか？

事務局_渡

そうです。普段は一人で取材に行きますが、この時は職場体験中の中学生と一緒に行きました。彼は別の集落に住んでいますが、(インタビューした)芦花部集落には、彼が通っている学校があり、本人も自分の学校のある集落について知ることができて喜んでいました。

山根委員

自分は、祖父母と話す機会はありませんでしたが、彼らの世代の人たちが集まって話をするという場に行くことはありませんでしたので、インタビュアーの中学生のように地元の子がその場に行き、話を聞くことには価値があるので、普段からそのスタイルにしてもいいのではないかと思います。

後藤委員長

ありがとうございます。最後に私から感想を述べます。私は、今回の番組は、中学生が祖父母世代の方達と話していることがいいと思いました。

また、インタビュアーが中学生だからこそその会話をしていたのかなと思いました。芦花部小学校の歴史が深いという話など、聴いているうちに芦花部集落に対して興味が湧いてきて、どんな集落なのか調べるなど、行ってみたいくなりました。普段のようなコアな話も面白いので、続いてほしい番組です。

そして、Uターンで帰ってきた方が、「あの時と同じ風景があって感動した」と話していて、変わらないことも変わっていくものも奄美の良さだと感じました。

インタビューは、全ての集落を訪れているのですか？

事務局_渡

なかなか瀬戸内町や龍郷町、宇検村方面は難しいのですが、他の地域は大体訪れることができました。回れていない地域や行きにくい集落の場合は、名瀬地区周辺でその地域の出身者を探し、話を聞くのもいいかなと考えています。また、1度取材した集落でも、2～3年後には年配の語り部が変わっていることもあるので、2回目でも新鮮なお話を聞くことができます。奄美大島には160ほどの集落があると言われており、私も行ったことのない集落、リスナーさんにとっては想像もできない集落がたくさんあると思うので、ぜひ番組を通して知ってほしいと思っています。以前、奄美博物館館長だった中山清美さんが「奄美大島は世界自然遺産候補だけど、シマ(集落)の足元にもいいものがたくさんある。行事や風習も宝物として大切にすることもいいのでは？」とおっしゃっており、それをヒントに取材するように心がけています。

後藤委員長

確かに、無理に残そうとすると“歴史、民俗”という感じになってしましますが、行事や風習などを“残すための使命”としてではなく生活の一部として取り組んでいる住民の方々の話を、さらっと、生活の一部らしくインタビューするのがいいのかなと思いました。あまみエフエムの得意分野というか、島でしかできない番組なので残ってほしいと思いました。

事務局_渡

ありがとうございます。台風などの災害の時は、集落の住民と電話中継をして現状を把握したり現地の声を届けたりしています。そのためにこの番組のインタビューの時も、皆さんの連絡先を伺い、距離を縮めることで、災害などの時に情報収集ができるようにしています。これからもどんどん取材に行きたいと思います。

山根委員

1つ提案です。番組の中でインタビューを受けた方が新聞の記事を持ってきて、自分が昔取り組んでいたことを紹介していたのが面白いと思ったので、今後もし変化を加えたいと思うのであれば、昔の写真などを見ながら話を聞くのも面白いのではないかと思います。

後藤委員長

ご意見ありがとうございます。ぜひ参考にさせていただければと思います。

以上で審議を終わります。

5. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

6. 審議会機関の答申又は意見の外用を公表した場合における、その公表の内容、方法及び年月日

① 自社放送：令和4年9月24日(土)

② 書面の備置き：令和4年9月24日(土)から、当該事項を記載した書面（議事録）を当法人事務局へ備置き、聴衆者の閲覧希望に対応

③ インターネット：令和4年9月24日(土)より当法人インターネットのホームページに転載

7. その他の参考事項

欠席された野元委員より後日メールにていただいたご意見：

・戦争時代を経験している古老の話は非常に貴重です。この番組もまた長く保管しておくべき貴重な内容だと思いました。日本が戦争に向かおうとしている時代に大人であった方々はもう数十年前に他界され、現在の戦争体験者は、戦時中子どもであった方々でしょう。両者には違いがあると思いますが、戦時中の日本を知る方も高齢ですから、番組の価値は高いと思います。

・審議会に向けて複数の放送を一度に聞いたからだろうと思いますが、同じ内容がくりかえされているように感じたり、誰が発言しているのかわからなくなったりして混乱しました。「今日は芦花部集落の2回目の放送です」という一言があればよかったです。

・ネイティブ島人のシマロが多いので、島の間人でない私には、意味がわからなくなることがあります。これは内地から来た人にはわからんかもと思われるところは、インタビュアーが標準語で繰り返してくれるとありがたいです。